

# 東京江東ロータリークラブ

2025～2026年度 テーマ

よいことのために手を取りあおう

RI 会長 フランチェスコ・アレツォ  
地区ガバナー 中川 雅雄

ROTARY Life

～継承～

クラブ会長 末次茂雄

今日の卓話

鈴木隆雄君

次年度台湾国際大会参加に向けて

小野綾子君

次年度地区役員準備について

次回例会案内

## 外部移動例会

日本外国特派員協会

E-mail : koto.re@sweet.ocn.ne.jp http://www.koto-rotary.jp

例会報告

10/14 会員数 18 名中 12 名

出席率 70.59%

【訂正出席率】9/2 88.24%



### 会長・幹事報告



●24 日（金）世界ポリオデー

●28 日（火）外部夜間例会 【日本外国特派員協会  
レストラン 10 階（洋食レストラン）】



### <委員会報告・その他>

小嶋米山記念奨学委員長：奨学金進呈  
旧東分区懇親ゴルフ大会の報告  
ロータリーの友の紹介

【回覧】：たんばばクラブ通信 【配布物】：週報 NO.11

次回通常例会は、10月28日（火）【日本外国特派員協会】夜間例会  
となっております。欠席されます方は、事務局までお知らせください。

### ニコニコボックス



追分義郎君：本日の卓話お招きありがとうございます。  
とうございます。宜しくお願い致します。  
末次会長：追分様、卓話楽しみにしています。

熊川幹事：本日もよろしくお願ひします。  
菅澤君：追分先生のお話をお待ちしていました。

伊藤（三）君：追分様、今日の卓話を楽しみに待っておりました。宜しくお願い致します。

鈴木君：東京江北ロータリークラブの追分様、卓話ありがとうございます。

鯉淵君：すみません。今日休みます。

小嶋君：本日宜しくお願い致します。

大澤君：追分さん、楽しみにしています！

小野君：追分様、本日の卓話楽しみにしております。

大木君：追分様、卓話よろしくお願い致します。

堀君：今日も、よろしくお願ひします。

大屋君：ゴルフコンペ、来年はビリから脱出しましょう！力が足りず申し訳ありません。

合計 56,000 円  
累計 569,000 円

2025年10月のロータリーレポート【1ドル149円】

事務局は午前10時から午後16時まで、囲碁や将棋・談話室として利用できます。掲示板も活用してください

●例会場 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト 21 東京内 TEL : 03(5683)5683 ●例会日 / 毎週火曜日 12時30分～13時30分  
●事務局 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト 21 東京内 TEL : 03(5632)3777 FAX : 03(5632)3737



# 米山奨学制度が拓く未来

第2580地区米山記念奨学委員長  
追分義郎氏



ロータリーは、「世界の平和と、秩序あるより良い社会の実現」を目指しています。そのために最も大切にしているのが「人づくり」です。未来を担う若者を育てることこそ、平和への確かな道です。ロータリーには、若者の成長と教育を支える多様なプログラムがあります。インターアクトは中高生の奉仕活動を支援し、ローターアクトは大学生・若手社会人の社会参加とリーダー育成を促します。青少年交換プログラムは高校生を対象とした国際交流の橋渡し、RYLA（ライラ）はリーダー育成を目的とします。また、世界の大学院で学ぶ人材を支援するロータリー財団奨学金、平和の専門家を育成するロータリー平和フェローシップもあります。そして日本には独自の「ロータリー米山記念奨学制度」があります。

米山奨学制度の目的は、「日本で学ぶ外国人留学生に経済的・精神的支援を行い、相互理解と友情を深め、世界平和の礎となる人材を育成すること」です。制度は体系的に運営されており、奨学会が目標と計画を立て、全国34地区に展開します。年度ごとに奨学生選考や支援活動を実施し、地区委員会・クラブ・カウンセラーが連携して運営します。

制度を支える組織は、公益財団法人米山記念奨学会が全体を管理し、財団法人米山奨学記念館が歴史資料や研修を担います。全国34地区は奨学会と契約を結び、地区事業として支援を実施。運営実施期間である地区米山記念奨学委員会は奨学生選考、カウンセラー推薦、行事企画、報告書管理を行います。クラブ会長・幹事・会員は奨学生を受け入れ、例会での支援や地域交流を担当。クラブ米山委員会は窓口として支援を統括し、米山奨学カウンセラーが奨学生の学業・生活をサポートします。学友会は卒業生ネットワークとして国際的

友情を維持発展します。この流れは「財団→地区→お世話クラブ→カウンセラー→奨学生→学友会」がひとつにつながり活動しています。

米山記念奨学委員会の年間サイクルは、4月の期間始業式の後、今年度の奨学生の管理と行事運営、同時に次年度準備が始まり、日本外国特派員協会校選定、6月に学校説明会、8月に募集受付開始、9月にクラブ訪問と支援状況確認、10月の米山月間には例会卓話や寄付啓発、広報活動を実施。11～12月は選考試験委員オリエンテーションと選考試験、1～2月は学友会行事や卒業予定者サポート、3月に奨学期間修了式と次年度引継ぎ・報告書提出を行います。こうした活動の積み重ねが制度の目的達成につながります。

奨学期間1年間は「点」にすぎませんが、学友会やクラブ会員との関係が続くことで「線」となり、将来へとつながります。1年間の支援が終わっても、その絆は終わりません。やがて日本や世界各地で活躍する学友たちが皆さまと手を取り合い、国際理解と友情のネットワークが広がっていきます。ビデオでの紹介になりますが、米山奨学学友の面々が米山制度の真意を深く理解し世界で貢献する姿を見ることができます。最後に、現在議論されている新たな動きとして、「日本人学生を対象とした海外留学支援制度」があります。2580地区大会で決議された、米山奨学制度の理念を逆方向に展開するものです。奨学会ではタスクフォースを組織して検討しています。

米山奨学制度は、日本のロータリアンが築いたロータリーの教育による平和貢献モデルです。一人の留学生を支援することは、一つの国を、ひとつの未来を支えることでもあります。私たちロータリアンは、その橋をつなぐ担い手であり続けたいと思います。

